

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	筑波大学	整理番号	C01
プログラム名称	ヒューマンバイオロジー学位プログラム		
プログラム責任者	清水 諭	プログラムコーディネーター	渋谷 彰

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、日本人学生及び留学生に対し、非常に行き届いた学習及び生活の指導を組織的・計画的に実現し、これを学生寮（インターナショナルドミトリー）における学生相互の協力、学生とメンターの相互交流等を通じて実質化するなど、学際性、国際性に富む、計画を超えた非常に優れた取組である。また、多数の海外拠点との協力、留学生の高い比率を活かし、海外ラボローテーションによる複数回の海外アカデミアでの研究やインターンシップを通じてグローバル人材の育成が実現しており、このような環境下で、俯瞰力や独創性を身に着けた学生が育ったと認められ、高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、第一期の修了者が海外のアカデミアに羽ばたき、第二期では、企業への就職も半数に及ぶ見込みであるなど、本プログラムが意図した博士人材の多様な進路とキャリアパスが実現されており、学生各自の専門分野における研究でも優れた成果をあげているなど、博士課程教育リーディングプログラムのカリキュラムの成果として高く評価できる。

事業の定着・発展については、既に事業の実施中に全学を挙げた組織改革として、「グローバル教育院」を設置し、学長のリーダーシップの下に、全学的な大学院改革が実現しつつある。支援期間終了後は、筑波大学の全ての博士課程教育リーディングプログラムを含む複数の学位プログラムが1つの制度の下に収められ、本プログラム特有のグローバルリーダー養成という性質が薄れる懸念はあるものの、学生への経済的支援については、給付額は減少するが、大学の独自資金により継続することが約束されており、第3期中期目標においても、博士課程教育リーディングプログラムの実施の経験と反省点に基づく継続的な改革が掲げられており、定着・発展の方向が明示されている点等は高く評価できる。また、グローバルリーダーの輩出について、特に、留学生と日本人学生の比率の改善や民間企業への進出等については、より一層の努力が必要であるが、事業実施の成果が将来においても維持され、大学全体の発展に継続的に反映されることを期待する。

事後評価結果案に対する意見申立て及び対応

機 関 名	筑波大学	整理番号	C01
プログラム名称	ヒューマンバイオロジー学位プログラム		
プログラム責任者	清水 論	プログラムコーディネーター	渋谷 彰

意見申立て内容	意見申立てへの対応
<p>【申立て箇所】</p> <p>(第三段落 2行目～5行目)</p> <p>学長のリーダーシップの下に、<u>全学的な大学院改革が実現しつつある。支援期間終了後は、筑波大学の全ての博士課程教育リーディングプログラムを含む複数の学位プログラムが1つの制度の下に収められ、本プログラムの独自性が減じられる恐れはあるものの、学生への経済的支援については、</u></p> <p>【意見及び理由】 (変更案)</p> <p>学長のリーダーシップの下に、すべての大学院課程が学際性と国際性に対応する学位プログラム制へ移行することが予定されており、全学的な大学院改革が実現しつつある。これには、本学初の学位プログラムである本プログラムが先駆けとなり、大きな波及効果を及ぼした。支援期間終了後の学生への経済的支援については、</p> <p>(変更の理由)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学的な大学院改革の骨子は、学位プログラム制への移行であることを明確に表現した。 2. 支援期間終了後も、本プログラム特有の内容に変更はなく、独自性が減じられる恐れはないと考えられることから、その部分を削除した。 3. むしろ、本プログラムの波及効果を強調するほうが妥当であるとする。 	<p>【対応】</p> <p>以下のとおり修正する。</p> <p>学長のリーダーシップの下に、全学的な大学院改革が実現しつつある。支援期間終了後は、筑波大学の全ての博士課程教育リーディングプログラムを含む複数の学位プログラムが1つの制度の下に収められ、<u>本プログラム特有のグローバルリーダー養成という性質が薄れる懸念はあるものの、学生への経済的支援については、</u></p> <p>【理由】</p> <p>すべての大学院課程が学位プログラム制へ移行するということは、本プログラム自身の持つグローバルリーダー養成という目的が掲げられるものではないと考えられる。学位プログラム制への先駆けとしての波及効果は認められるものの、その独自性に若干の変化があり得ると思われるため、上記のとおり文言を追加する。</p>